

閉会中の調査報告

福祉教育常任委員会

開催日時 令和4年2月4日（金）午前9時26分～午前11時43分
出席者 松井委員長、細川副委員長、赤祖父委員、上野委員、永田委員、菅沼議長
説明員 市長、健康福祉部長、健康福祉部理事、健康福祉部次長、福祉政策課長、
子ども政策課長、幼児施設課長

○所管事務調査：湖南省第四次地域福祉計画の素案について

計画素案は、1月26日から2月20日までの期間パブリックコメントをしている。

（資料1）第三次計画からの変更点。

1点目は、地域福祉計画等と地域福祉活動計画との一体的な策定。同じ理念や方向性のもと、湖南省の地域福祉を推進していくこと。

2点目は、平成30年の改正社会福祉法により、地域福祉計画が、福祉分野の上位計画として位置付けられ策定が努力義務となったことと、令和3年の改正社会福祉法により、地域共生社会の実現に向けた包括的な支援体制の整備が求められているということ。国の流れを踏まえ、第四次計画に新たに盛り込んだ事項は、1番から5番に掲げている事項。その中で、様々な困難を抱える人、地域全体で支援する取り組みを住民一人一人の理解と協力を得ながら進めていく観点から、2番の成年後見制度利用促進計画と3番の再犯防止推進計画については、この計画に包含をしている。

3点目、（資料P4）は、現行の第三次の基本目標を第四次のどの項目に整理したかわかるようにした図式です。社会福祉協議会と行政、それぞれが施策に対して果たすべき役割や具体的な取り組みを記載しました。

5点目、評価や進捗に指標の設定をしました。

6点目、持続可能な開発目標SDGsとの施策の位置付けです。

地域社会を実現するために既存の制度の狭間にある人への支援の強化を図っていく。

7点目は、計画の進捗管理評価です。

1、地域福祉推進協議会を設置し、施策の評価を見直し改善について検討を行います。

2、次期計画の策定に当たり、アンケート調査や市民参画による施策の事業の評価を行うために地域懇談会を開催し、計画の点検や評価に取り組むと説明がありました。

<主な質疑>

職員全体の意識改革はどのように考えておられるのかという質疑に対して、今までは、それぞれの分野、担当課で相談を聞きそのまま留まっている場合もありますが、横断的に庁内での連携を強化していく。関係課の職員を集めて連携会議などをもち、地域福祉に関わる相談業務を連携して取り組んでいくとの答弁でした。

現場をしっかりと知って、本当に困っている方々にどれだけ寄り添えるかが大事だという市長の発言がありました。

地域との連携についての考えはという質疑に対して、湖南省市の7つの地域まちづくり協議会に生活支援体制整備事業の第2層、社会福祉協議会には第1層の委託をして、連携を図る会議を設けている。それぞれの地域でどのような地域資源があるのか、ないのか、どういうニーズがあるのか、市としてどのようなことができるのか地域の状況などを共有しながら、連携を進めていきたいとの答弁でした。

窓口で相談対応をした職員の力量が必要となるが育成についての取り組みはという質疑に対して、行政職と専門職が混在するような形で福祉事務所に職員が配置されています。専門職の求人を行っても応募がない年もあります。今年度、社会福祉士、保健師、発達相談員等の募集をして増員の予定です。専門職の人も各分野を何年かごとに経験して担当以外の業務でも対応していけるよう積み重ねが大事、人事異動で職員の成長もあり、それぞれの力量を高めていくことも必要です。また市の職員以外にも、市内の関係団体に必要な人材を確保していただき、連携会議の中でいろんな方々と出会うことで、それぞれの力量も高まっていくとの答弁でした。

○所管事務調査：保育行政について

令和4年度の保育園等の新規申し込み状況。昨年9月に募集をして403件の新規申し込みがあり、内訳は入園内定者328名、辞退者33名、保留者15名、育休延長希望者27名、令和4年4月時点の待機児童はゼロの見込みです。

昨年度の新規申し込み件数は430名でしたので、27名減少している状況です。

平成27年度からの利用者等の表は継続利用の方を含めた4月1日時点の数字です。保育ニーズは、令和2年までは上昇傾向でしたが、それ以降は横ばい傾向となっていて、幼稚園や子ども園の短時間の利用児童数は合計で483名の見込み。昨年度は525名でしたので、1号認定のニーズは減少傾向。

10園あった公立の保育園や子ども園、幼稚園のうち6園は、令和2年度から民営化を行っています。民営化については、平成28年に策定した第三次行政改革大綱に位置付けられて、認定子ども園化、民営化を含む適正配置実施の検討が進められてきました。多様な保育ニーズに対応するため、民間の力を活用して保育サービスの向上を図ることを目的としました。

また、老朽化した施設の更新について、市が建て替えを行っても国からの補助はないが、民間が建て替えを行う場合は、国の補助が出るため有利に行っていくことができることから、子ども子育て未来会議や民営化検討委員会などで、民営化の方針や計画を策定してきました。

平成30年に、中学校区を1つの保育提供区域として、提供区域ごとに拠点園として、4中学校区の区域に公立園を1ヶ所継続し、残りの6園を民営化する計画で進めてきました。

これらの方針を、平成30年6月議会で説明し、8月に保護者や地域の方を対象として、各中学校区単位で説明会を行いました。

子ども子育て未来会議に、説明会での意見を伝え、移管法人の募集概要、選考委員会の方法などを諮りながら、募集要項などを作成し、福祉教育常任委員会で募集要項の説明を行ってきました。老朽化している園の建て替え事業の整備スケジュールは、今年度、阿星あかつき保育園、三雲くじら保育園が工事を行っていて、4月1日から新園舎で運営予定、阿星保育園はこども園に改変。来年度は今の園舎の解体工事が行われる予定。HOPPA 湖南水戸が、令和4年度に建て替え工事着手予定。HOPPA 石部幼稚園は、令和4年度から一旦、石部南に統合されてから、令和5年度に建て替えの工事を着手され、令和6年度に認定こども園として開園する予定です。HOPPA 石部、HOPPA 石部南については、法人の募集当時から大きく定員割れをしていたこともあり、2園セットで募集をしました。民営化された園の建て替え事業が終了後、公立で老朽化が進んでいる下田こども園、石部保育園の建て替え事業を計画していますと説明がありました。

(主な質疑)

2園セットで募集をされた当初から、今後、石部南をなくす状況で民営化されたのかという質疑に対して、最初の募集要項の段階で、2園セットで募集した。定員が減ってきているということもあり、統合して建て替え整備で「こども園化」して開園することも検討しますと法人から提案がありました。

石部南について閉園するという事は最初から示唆されておられたのかという質疑に対して、利用者数がどんどん減っている状況で、運営を考えたときに再編も検討していかないといけないという状況で事業者の提案の中でもそういった提案があった。

「こども園化」で、キャパは大きくなるということですが、石部中央に新しい住宅地ができます、十分入園できるのかという質疑に対して、今後、こども園として建て替える計画協議の中で、利用定員は検討しますとの答弁でした。

石部南幼稚園の施設は、今後、子育て支援に関係するような使われ方をされるのかという質疑に対して、どのように活用していくかは、まだこれからの協議ですが、今の施設を撤去して更地にするということは現時点では全く考えていないとの答弁でした。

民営化を議決する時にそのような説明を一切聞いてない。募集要項には2園同時で募集されて、法人が提案された「こども園化」については、選定をする段階でその話はあったのかどうかという質疑に対して、提案書の中に書かれていたということですとの答弁でした。

当初から2園を1園にするということであったという説明が正しいのかとの質疑に対しては、直ぐに答弁ができなかったため、時系列やどういった条件であったのかを整理した上で、福祉教育常任委員会に再度報告をいただくことになりました。

○報告案件：新型コロナウイルスワクチン接種（3回目接種）について

2回目接種後6ヶ月経過の前倒しとなるため、集団接種会場の接種日を週4回から週6回に増やし対応をしている。医療従事者は12月から始まり、65歳以上の方が対象で7月7日

までに2回目接種された方については全員、接種券を発送しました。妊婦の方がオミクロン株で重症化する例があるということで、2月から2回目接種から6ヶ月以上を経過する妊婦の方には発送をしています。

また集団接種会場や職域での接種も始まるので、連絡をいただいた方には接種券を予定よりも早く渡していきます。

2月から先行予約を別の予約のシステムを使って始めています。対象は基礎疾患を有する人（別紙1）と社会機能維持者（別紙2）で、2回目接種後6ヶ月以上経過した人で18歳以上の方、日本国内で初回接種または初回接種に相当する接種を終了している人です。先行予約の方は全て、集団接種会場モデルナワクチンの接種となる。予約の受付日時等は、日曜日と祝日で、これらの人数（資料）で予約を受けています。湖南市のホームページから申請受付システムで予約となります。

（主な質疑）

集団接種会場における接種後の体調不良があった方は回復しておられるのかという質疑に対して、後日、看護師等が状況の確認等もしている。若干、日数は変わりますが、元に戻られている方がほとんどです。

1回目副反応が出た方は2回目も副反応が出る可能性は高いのかという質疑に対して、その方によると考えます。1、2回目ファイザーの接種の方は3回目もファイザーを希望される方が多いと考えていますが、国は交差接種した方が、抗体は上がるとも言われています。アナフィラキシーを起こした方は、市の集団接種会場ではいなかったという答弁でした。

5歳から11歳のワクチン接種については、市内の小児科の先生方も基礎疾患のある子どもたちは、できたら打つほうがよいという意見でした。しかしワクチンが同量というのには、少し戸惑いがあるとの市長の発言でした。

○報告案件：民営化に係るアンケート実施結果について

民営化した6園の保護者にアンケート調査を昨年10月20日から11月5日にかけて実施。回収率は57.8%。民営化前から利用されている方と、民営化後に利用された方とで、概ね半数の回答となっている。

○通われている園の保育教育内容についての質問では、86.4%の保護者の方が、満足している、概ね満足していると回答。

○保育士の人数についての質問では、満足している、概ね満足していると回答された方が74.7%、不安や不満と回答された方は、17.9%。

○園児や保護者に対する保育士の対応についての質問では、82%の保護者の方が、満足しているか、概ね満足していると回答。

○民営化を進めるにあたり保護者への説明は十分なものでしたかという質問では、64.2%の方が十分であった、概ね十分であったと回答。26.1%の方が不十分であったと回答。

○民営化になって金銭的な負担は増えたかという質問では、約半数の方がどちらともいえない

いと回答されていますが、増えたと感じておられる方が減ったと感じておられる方よりも、若干多い結果です。

○公立の時の保育内容などが引き継がれていると感じているかという質問では、60.5%の保護者の方が、概ね引き継がれていると感じておられ、22.4%の方は、あまり引き継がれていないと感じておられる結果。

○公立の時と比べて保育教育内容は良くなったかという質問では、どちらともいえないが一番多く、良くなったと感じておられる方が42.5%で、悪くなったと感じておられる方よりも多い結果です。

○公立園が民営化されてよかったかという質問では、よかったと感じておられる方がよくなかったと感じておられる方を上回る結果となっています。

（民営化について自由記述での意見）

一番多かったのは、保育や教育の内容が良くなったという意見でした。

各園とも公立時の内容も引き継ぎながら民間の特色を出していただけていると感じています。反面、保育士の数が少なくなったという意見や対応が悪くなったという意見もありました。

（市に対する意見、要望）

市に対しては、産後6ヶ月での退園を見直してほしい、保育料を安くしてほしいといった意見。園に対しては、園や保育士は、よくやっているという意見や保育内容の改善要望や給食費を安くしてほしいなどの意見がありました。

今回のアンケートでは、各園ともそれぞれの特色を出して保育などを行って、保護者からは一定の評価が得られていると感じています。

特に公立には行っていなかった幼稚園での預かり保育や園での延長保育なども民間でいただき、多様な保育ニーズにも対応してサービスも少し向上していると感じています。一方で、保育士が少なくなったという意見なども一部にはありますので、保育士の人材確保事業についても進めていけたらと考えています。今回の結果については、それぞれの園に、フィードバックして今後の保育や教育内容に生かしていただきたいと思っています。

○報告案件：子育て支援アンケート（Webアンケート）実施結果について

湖南省の子育て施策の質の向上や必要な子育て施策の提供につなげていくために、子ども子育て未来会議委員や関係部署と質問内容を検討し、10月に市ホームページでWebアンケートを実施しました。調査概要は、市ホームページのWebアンケートであることから、スマートフォンで簡単にできるよう設問数もあまり多くないように配慮しました。また、多言語音声読み上げ対応にもなっていて、実際に外国籍の方にもアンケートにお答えしていただきました。QRコードつきのアンケート依頼文を、市内小学校約3,000人、幼稚園、こども園、保育園などの園に約2,000人、集いの広場、子育て支援センターに約200人に配布を行いました。そのほか、市のホームページ、LINE、市の職員、教員、保育士等関係者にも知

らせ、小学生以下の保護者以外にも子育て中の方、これからされる方、以前されていた方など、幅広い方にも周知依頼を行い、意見やアイデアを募り、延べ8,851人から回答がありました。

○子育て支援事業の実施場所という質問や子どもの遊び場として公園以外の場所で利用できるとよいかという質問では、共にまちづくりセンターなど地域施設が利用しやすいという方が多かった。

○地域の繋がりや活動は子育てにおいて重要だと思うかという質問では、どちらかといえばそう思うとそう思うが多かった。

○地域活動に求めるものとして、子どもが楽しむイベント、学べる体験の場、居場所づくりが高い。

○お子さんが園に楽しそうに登園し、園のサービスに満足している人が多い。

○学童保育所に楽しそうに通所し、そのサービスに満足している人が多い。

○夏休みなどの長期休暇のみ子どもを預かる場所があったら利用させたい人が多い。

たくさんのご意見をいただきましたので、庁内の関係機関や1月末に開催した第2回湖南省子ども子育て未来会議でも共有を行い、今後の子育て支援充実に向けて検討を行っています。

(主な質問)

発達支援の加配やシステムについて民間でも引き継がれているのかという質問に対して、発達支援システムについては湖南省の目玉として頑張ってきたので、それを民営化された6園に継続していただけるように、また新規の子どもも入園されるので新たなノウハウが必要な場合もあるので、発達支援室と幼児施設課の保育士が連携して、民間園でスムーズにその子どもさんを預かっていただけるように、今後も努力していきたいとの答弁でした。

貴重なご意見をたくさんいただいているので、しっかり回答をしていくような今後の取り扱いについてと担当課の受け止めはとの質問に対して、アンケート内容は、ホームページに掲載していますが、子ども子育て未来会議の議事録は、でき次第、周知をしていきたい。まずは地域、身近な場所での子どもの居場所づくりがキーワードになったので、一緒に考えながら、発信できるようにしていきたいとの答弁でした。

屋外遊具を整えてほしいという意見も上がっているので、関係課と連携して子育てしやすい環境が必要ではとの質問に対して、公園の草が生い茂って遊べないという意見もありました。アンケートを取ることによって、視野を広めて他の部署との連携も今後進めていきたいとの答弁でした。

アンケートは少子化対策としてどのように生かすのかという質問に対して、アンケートの設問を考えるにあたり、地域創生や少子化対策の観点から、不妊治療のことなどを設問に取り入れ、関係課と一緒に少子化対策を考えていきたいとの答弁でした。

日本全体の分母が減っている中でも他市の地域にない切り口で、湖南省の魅力が発信できるような子育て環境を作ることが一番だと思うので、こういったデータをしっかりと分析をして、次の展望につなげていただきたいという意見がありました。

アンケートの自由記述でいろんな意見を出していただいているので、大枠で結構なので、

1つ1つの問いに対して回答をホームページに掲載されるほうが、アンケートに協力していただいた方に対して、より丁寧であるという意見がありました。